



ソフトバンクグループ株式会社

2021年3月期 決算説明会

2021年5月12日

質疑応答

質疑応答

質問者 1：ソフトバンク・ビジョン・ファンド（以下「SVF」）2 について伺います。すでに出資コミットメント額が 300 億ドルとなっていますが、今後、外部の投資家から資金を集める予定はあるのでしょうか。その場合に、SVF1 で用意したような固定の定率分配は設けるのでしょうか。

あと、SVF2 の投資が進んでいます。SVF1 よりも社数が増えています。その分、1 社あたりの金額が小さいかなと思いますが、何か抑制をしているとか、投資方針が変わったのか教えてください。

孫：はい。SVF2 が始まって、順調に進んでいますが、最初は一生懸命外部投資家を募集しました。集まらなかった。仕方なく自分たちで始めた。始めてみると、これはこれでいいのではないかという思いが今はしています。なぜなら、ちょうど 1 年前に 4.5 兆円の資金化プログラムを発表し、実際には 10 兆円近い資金の調達にこぎつけた。

そのうちの半分ぐらいはアームの売却というものがありますので、これは許認可を待たなければいけないのですが、少なくともわれわれは資金が手元に十分できたと。ですから、われわれの手元資金だけで当面、投資に困らないという状況ができましたので、今の時点では手持ち資金で粛々と続けられる。

SVF1 のイグジットと伺いますか、一部上場したあとの株式の売却等もこれから出てきますので、自分たちの資金で回転していくことができるような状況にまで、今は変わってきたのではないかなというふうに思います。

ただ、永遠に投資家を募集しないというところまで頑なに決めているわけではありません。今、無理してお願いしにこうというつもりもないし、永遠に閉じるということでもない。今はこの状態のまま続けていっていいのではないかという感じにあるということです。

質問者 2：今後の中長期的な成長に向けた考え方について教えていただきたいのですが、今回の純利益を見れば、バークシャー・ハサウェイ（以下「バークシャー」）のように、世界有数の投資会社と言える水準かと思うのですが、一方で、バークシャーはこの 1 年で時価総額ベースでも保有株式の価値以上にマーケットで高く評価されています。

バークシャーとは歴史もポートフォリオもまったく違うとは思いますが、これから投資会社として一段の成長をするために、バークシャーと同じように長い年月をかけて成長するというお考えはないと思いますので、中長期的な投資方針についてお考えがあればお聞かせください。

孫：われわれが保有している株式の価値から負債を引いた時価、純資産と比べれば、今のわれわれの時価総額の1.5倍ぐらい持っている。過小評価されていると私は正直思いますが、これが適正な評価になるためには、まだまだわれわれがいろいろ反省をし、いろいろ精進をして、確かにまぐれ当たりではなくて、継続して利益を出して価値を増大させていくのだろうと多くの皆さまに安心していただいたときに、初めてわれわれの保有株式に対するプレミアムが付くようになるだろうと私は信じています。

でも、それはもう自分たちの実力を認めてもらうまで、われわれはただしっかり頑張っていくと。それを認めてもらえる日が来れば、それはそれで嬉しいし、認めてもらえようが認めてもらえなからうが、私の行動はまったく変わりませんし、継続して頑張り続けるということですね。継続して頑張り続ければ、いつかいいことがあるというふうに思っています。

質問者3：これからの投資ビジョンについて、もう少し伺いたいのですが、SVFみたいな規模のファンドを次々つくるか、それとも、SVF3、4は以前のように外部からお金を募集するのか、または違うことをやりたいというビジョンはありますか。

孫：いや、先ほど申しました通り、SVF2で自分の手金100%で今、十分回っていっていると。まだまだ資金の余裕もあるし、SVF1あるいは2の一部、上場して換金されて循環してくる部分もあるので、今はこのままもう少し続けていく。将来、もしかしたら外部の投資家を受け入れることがあるかもしれない。それはまだ分からないということです。少なくとも今は、粛々とこれを回し続けている。少なくとも3カ月で60社ほど増えました。こういうかたちで、まだまだ進めていきたいというふうに考えています。

質問者4：SVF2について、もうちょっと詳しく伺いたいのですが、出資のコミットメント額が去年の12月末で100億ドルだったのが、この5月の時点で300億ドルという、半年足らずで3倍規模になっていると思うのですが、3カ月で60社という話もありましたけども、今後のペースというか、出資コミットメント総額の規模感をどのようにしていくのかを、あらためてお聞かせください。

孫：われわれの手元資金が潤沢にありますので、投資機会、投資のオポチュニティが十分にあれば、それに見合うかたちで、資金を用意していくかたちになります。これは走りながら、そのときの手元資金の状況と、そして投資機会ですね。いい会社がもう枯れてきてしまうかもしれないし。今のところ、順調に素晴らしいAI企業が続々と見つかっていますので、投資に見合ういい企業が見つかる限り、そしてわれわれの資金が続く限り継続して投資をしていきたい。

必要な資金はイグジットから出てくる、つまり上場したあとに換金する部分からも出てきますので、このペースをこのまま続けていきたいと。約1兆円だったものが3兆円に今増えたという状況ですけれども、これがもっともっと、様子を見ながらですけども、一步一步続けていくということになります。

質問者 5：先日、欧州委員会で、AIに対する規制案がまとめられたり、各国でデジタルプラットフォームに対する規制強化の動きが出ていますが、そういう規制強化の動きが、孫さんが描いているAI革命にどのような影響をもたらすのかというのをお願いします。

孫：規制は必要だと思うのです。規制がまったくないと、個人情報漏えいとか、プライバシーの侵害とか、独禁法に触れるようなことがあったりとか、さまざまに問題が社会に起き得るので。規制はどの国においても、特に新しい産業、新しく生まれる社会の問題に常に対応しなければいけないので、社会が新たな規制を求めるということだと思うのです。

一方、AIの技術革新はどんどん進んでいますから、品行方正に行うという規制の中で、技術革新はずっと続いていくと。その分のオポチュニティはますます出てくると私は思っています。

質問者 6：規制に関しての投資方針の変化についてなのですが、とりわけ中国のIT企業への規制というのが今高まりを見せていて、その辺に関して、投資方針の変化だったりとか、心境の変化だったり、孫さんご自身におありかどうか、伺えればと思います。

孫：中国だけではなくて、欧米もさまざまな規制は日々、テーマごとに出てきていると思います。

これは先ほど言いましたように、人々の新たな社会生活のために、新たに問題になるものには新たな規制が常に必要とされている。それはいいことだと。健全な成長のためにはいいことだと私は思っていますので、それは歓迎するわけですけれども、われわれはその規制によって、投資の方針が変わるということはほとんどない。

特に、われわれの場合はユニコーン相手ですから、手前のすくすくと伸び盛りの新しいジャンルを切り開くパイオニアの集団ですから、そういう意味では、GAFAsのように大きくなった企業への規制とはまたちょっと違う会社のほうが多いというふうに思います。

質問者 7：アリババ株の今後の保有方針について、お聞かせください。

孫：はい。アリババはいろいろ事件があったり、いろいろな報道がありますがけれども、多くの人の必要とするサービスを真面目に一生懸命、提供していますので、業績は伸び続けているということだと思います。ですから、われわれのアリババに対する保有方針は、基本的には変わらないということだと思います。

質問者 8：ビットコインについて、孫さんのお考えを聞かせていただきたいのですが、テスラ、ネクソンがビットコインに投資している中で、手元資金をビットコインに回すことを考えているのでしょうか。

孫：ビットコインについては、それが良いのか悪いのかという議論は何回も行われてきています。それが本当にどれだけ価値があるのかとか、バブルなのかということについては、私もよく分からないということだと思います。

一方、それを欲しいと思っている方、投資している方もたくさんいますし、そういうものが欲しいという方々に対して、それを提供するインフラ、プラットフォームがあります。これはもう無視できないぐらいの数の人々が、例えば金を買うとか、ダイヤモンドを買うとか、債券を買うとか、株を買うと同じように、この暗号資産を買うという人が増えてきていますので、それそのものを僕は否定する必要もないとは思っています。これは僕らもまだ、常に社内でも議論している状況です。

質問者 9：SVF が出資しているマップボックスと、SVF 出資の SPAC が合併をして株式上場を計画しているというような報道があったのですが、今後、SPAC の使い方として、SVF の会社を上場させるために、例えば、ご自身が設立した SPAC を使う予定があるのかどうか。あと、それが果たして健全な方法なのかということについて、ぜひお考えをお聞かせください。

孫：可能性はあると思うのです。可能性があるというのは、それぞれの会社に対して、われわれが 20%、30%、40%株を持っていることはありますけれども、51%を持って過半数を持っているとか、取締役会の過半数を持っているということではありません。

例えば今、例に挙げたマップボックスみたいな会社。仮にそういう話があるとしても、それぞれの会社がそれぞれの会社の取締役会で複数の SPAC のオファーを十分検討して、その中で、たまたまた SVF 側がオファーする内容がその会社にとってもいいもので、そして、われわれから見ても魅力的だと思えば、その企業のサイズだとか、状況だとか、いろいろな諸条件が満たされ、お互いにウィン・ウィンだと思えば、そういうかたちのマッチングもあり得る。それを否定するものではないと。

ただ、今 224 社が、われわれのグループになりましたけども、仮にわれわれが SPAC をやるとしても、年間で数社ということだと思います。いわゆる一般の IPO ルートで株式上場するのが圧倒的大半で、一部、われわれ側が SPAC のスポンサー側になるということもケース・バイ・ケースではあり得ると。

別にそれ自体が何かのルールを犯すとか、不健全だというふうには思わない。それはあくまでも、相手方の会社が複数の SPAC のオファーを得て、その取締役会でこちらの SPAC を選ぶというこ

とであれば、また、われわれ側からもそういうオファーをすべきだということであれば、ほかの SPAC のスポンサーに対抗して出すということはある。

われわれのみが唯一の SPAC の提供者として出すケースというのは、まずほとんどないのではないかと。それこそ不健全だということもあり得ますので、複数が出す中で、われわれもその一員として参戦するということは、場合によってはあり得るだろうということだと思います。

質問者 10：今日をもちまして既存の自己株式取得のプログラムが終わると思いますが、月間 2,000 億以上を使って今まで株価を支えてきましたが、これから追加のコミットメントがあり得るかどうか、果たしてそのコミットメントなしで、どれくらい株価を維持できるのか、孫さんの考えをお聞かせください。

孫：自社株買いは、適切なときにわれわれが判断したら、新たに発表することはあり得るかもしれませんが、今現在、何か決定しているということはない。

また、自社株買いは株価を支えるためにというコメントがありましたけれども。実際に自社株買いを発表して行えば、株価が上がる場合が多いということはあると思いますが、別に支えるためにやるのではなくて、自社株買いがわれわれにとって有利だと思ったときには、それを行う。

また、われわれとしては、新たな投資のオポチュニティも常に見なければいけないし、財務バランスシートの LTV の状況も見ながら考えなければいけないし、株価があまりにも安く放置されているという状況であれば当然、自社株買いはその検討の材料の一つには入ると。

常にいろいろなバランスを見ながら、そのとき、そのときに判断するということです。

質問者 11：日本のデジタル活用について、お聞きします。デジタル庁が秋に発足するなど、日本でもデジタル化の気運が高まってきていると思うのですが、一方で、昨年来から給付金の支給を巡る混乱ですとか、ワクチン接種の混乱ですとか、IT 活用に課題があると思います。

孫さんは過去に、「日本は AI 後進国」と言っていましたが、日本という国が、デジタル技術を上手に活用して、競争力を高めていくためにどうしていくべきなのかという点について、この IRR43%と、孫さんはそこにどう貢献できるのか。その辺りについてご意見をお願いします。

孫：はい。世界に 1,000 社ぐらい AI 分野のユニコーンがある中で、日本には 3 社ぐらいしかない。決定的に AI 革命から後れを取ってしまったというのは事実だと思います。

デジタルトランスフォーメーションのさらに先には、AI トランスフォーメーションというのがあるわけですが、もうデジタルにするのは当たり前の話で、デジタルになっていないということは、そもそものスタートラインにも並んでいないという状況だと思います。

ファクスで未だに PCR の検査結果を伝えるとか、何を考えているのだと。もう恥ずかしくて話にならないということだと思ふのです。そういうことで、デジタルトランスフォーメーションするのはもう当然、当たり前のことだと思ふのです。もはや今、世界の最先端はさらにその上の AI 革命で競争し合っている。

スタートラインの後ろのマイナススタートではなくて、せめて世界のスタートラインに日本も早く立ちたいですね。AI のユニコーン軍団の中のせめて 10% ぐらい、1,000 社あれば、100 社ぐらいは日本でないとおかしいのだろうと思ふのです。そういう意味では、大変、日本の現状を憂えています。

一方、私は政治家ではありませんし、それを意思決定できる立場にもないので、われわれがとにかく、一民間企業として事例を示す。われわれは徹底的に成功事例を世界にどんどん示しながら、日本にもそういう機運が高まることを祈っていると。また、日本で AI のユニコーン軍団が育つようにするにはどうしたらいいかというのを、今、日々考えを巡らせている。若干アイデアはあるのですが、僕らの新しいアイデアを、今ここで語るのはちょっと時期尚早だと思いますので、コメントはほどほどにしますが、日本の現状をととても悲しく憂いているというのは事実です。

質問者 12：今回の決算ですが、たまたまの、たまたまの、たまたまというふうに冒頭、ご発言がありました。一方で、5 兆、6 兆で満足できるわけではないというご発言もありました。あらためてですが、国内の企業では最高益を今回、稼ぎ出したことについて思いをお聞かせください。

あと、併せて、これまでトヨタ自動車さんが常に国内企業のトップだったわけですが、それを上回る利益を上げたことについて、ご所見があれば一言いただけないでしょうか。

孫：今回の 5 兆円近い利益というのはたまたまの、たまたまの、たまたまが重なった程度なので、あまり胸を張ってわれわれが言えるような状況ではないと。

ただ、1 回達成したものが、1 回きりで終わるようなことにはしたくないと。当然、仕組みとして、継続してそれを上回っていけるような実力値を付けるように頑張っていきたいと。多くの反省点が見えているので、反省点が見えている以上は改善できていると思っているのです。

ですから、必ずそれらを改善しながら、いずれ多くの方々が、そろそろたまたまと言うのをやめようかというふうに思ってもらえるようなレベルになりたいと。また、なってみせるという気概はあります。

質問者 13：ソフトバンク創業 40 年の歴史を振り返ると、やはり総務省ですとか、NTT ですか、そういったところと戦ってきた歴史なのかなというふうに思っています。先日、NTT と総務省の会食問題が話題になりましたが、孫さんの受け止めに教えてください。

孫：はい。私は少なくとも、自分たちの業界の監督官庁から天下りを得るということは絶対にしないということを、内部にも外にも公言しています。

もう会食などというのは当然、いけないことだと思いますけど、監督官庁の方々と、癒着のような会食は当然いけないことだと思っていますし、われわれはしていませんが、もっと大きな問題は、年間数千万円もの報酬を払って、天下りを監督官庁から受け入れると。これはもっと人々から責められるべき人的癒着だと、人的賄賂だと僕は思うのですね。

5 万円、10 万円の会食を 2~3 回やったというよりも、もっと大きく問題にすべきなのは、数千万円秘書付き、お迎え自動車付き、なんとかクラブの会員権付きで、数千万円の単位で副社長とかいうかたちで、監督官庁から 2~3 年間、ワンクッション経て、引き続き継続的に受け入れていくという会社と、それを継続して、卒業のコースみたいなかたちで送り出す監督官庁というのは、いったいどういう癒着だと。なんでそれを皆さん、問題視しないのだろうか。

これは特定の 1 社、2 社ではなくて、金融界にもありますし、通信界にもありますし、その他、教育界と、いろいろなところに日本の構造的癒着問題があります。僕はもっと怒るべき問題があるというふうに思いますね。

ワクチン一つ取っても、製薬のことも、言いたいこと、怒り狂うことはいっぱいありますけれども、まあまあ、今日は決算発表ですからね。怒り狂うような発言はほどほどにしておかないと、また次やられますからね。僕が一言言うと、SBKK の社員とか幹部がみんな迷惑する。「孫さん、あまり刺激するようなことを言わないでくださいよ」と、いつも口止めされているのです。いつも我慢しているのです。

でも、日本のためには、ときには爆発しなければいけないのではないかという思いがあります。すみませんね。決算発表の最後に爆弾発言のようなことをしてしまって申しわけないのですけども、それだけ憂うこともたくさんあります。一方、われわれは民間企業として事業を通じて、人々の幸せに少しでも貢献したいと心底思っています。まだまだ反省しながら頑張っていきます。

IMPORTANT INFORMATION

Disclaimers

This presentation provides relevant information about SoftBank Group Corp. (“SBG”) and its subsidiaries (together with SBG, the “Company”) and its affiliates (together with the Company, the “Group”) and does not constitute or form any solicitation of investment including any offer to buy or subscribe for any securities in any jurisdiction.

This presentation contains forward-looking statements, beliefs or opinions regarding the Group, such as statements about the Group’s future business, future position and results of operations, including estimates, forecasts, targets and plans for the Group. Without limitation, forward-looking statements often include the words such as “targets”, “plans”, “believes”, “hopes”, “continues”, “expects”, “aims”, “intends”, “will”, “may”, “should”, “would”, “could” “anticipates”, “estimates”, “projects” or words or terms of similar substance or the negative thereof. Any forward-looking statements in this presentation are based on the current assumptions and beliefs of the Group in light of the information currently available to it as of the date hereof. Such forward-looking statements do not represent any guarantee by any member of the Group or its management of future performance and involve known and unknown risks, uncertainties and other factors, including but not limited to: the success of the Group’s business model; the Group’s ability to procure funding and the effect of its funding arrangements; key person risks relating to the management team of SBG; risks relating to and affecting the Group’s investment activities; risks relating to SB Fund (defined as below), its investments, investors and investees; risks relating to SoftBank Corp. and the success of its business; risks relating to law, regulation and regulatory regimes; risks relating to intellectual property; litigation; and other factors, any of which may cause the Group’s actual results, performance, achievements or financial position to be materially different from any future results, performance, achievements or financial position expressed or implied by such forward-looking statements. For more information on these and other factors which may affect the Group’s results, performance, achievements, or financial position, see “Risk Factors” on SBG’s website at https://group.softbank/en/ir/investors/management_policy/risk_factor. None of the Group nor its management gives any assurances that the expectations expressed in

these forward-looking statements will turn out to be correct, and actual results, performance, achievements or financial position could materially differ from expectations. Persons viewing this presentation should not place undue reliance on forward looking statements. The Company undertakes no obligation to update any of the forward-looking statements contained in this presentation or any other forward-looking statements the Company may make. Past performance is not an indicator of future results and the results of the Group in this presentation may not be indicative of, and are not an estimate, forecast or projection of the Group's future results.

The Company does not guarantee the accuracy or completeness of information in this presentation regarding companies (including, but not limited to, those in which SB Funds have invested) other than the Group which has been quoted from public and other sources.

Regarding Trademarks

Names of companies, products and services that appear in this presentation are trademarks or registered trademarks of their respective companies.

Important Notice – Trading of SBG Common Stock, Disclaimer Regarding Un-sponsored American Depository Receipts.

SBG encourages anyone interested in buying or selling its common stock to do so on the Tokyo Stock Exchange, which is where its common stock is listed and primarily trades. SBG's disclosures are not intended to facilitate trades in, and should not be relied on for decisions to trade, un-sponsored American Depository Receipts ("ADRs").

SBG has not and does not participate in, support, encourage, or otherwise consent to the creation of any un-sponsored ADR programs or the issuance or trading of any ADRs issued thereunder in respect of its common stock. SBG does not represent to any ADR holder, bank or depository institution, nor should any such person or entity form the belief, that (i) SBG has any reporting obligations within the meaning of the U.S. Securities Exchange Act of 1934 ("Exchange Act") or (ii) SBG's website will contain on

an ongoing basis all information necessary for SBG to maintain an exemption from registering its common stock under the Exchange Act pursuant to Rule 12g3-2(b) thereunder.

To the maximum extent permitted by applicable law, SBG and the Group disclaim any responsibility or liability to ADR holders, banks, depository institutions, or any other entities or individuals in connection with any unsponsored ADRs representing its common stock.

The above disclaimers apply with equal force to the securities of any of the Group which are or may in the future be the subject of unsponsored ADR programs, such as SoftBank Corp. or Z Holdings Corporation.

Notice regarding Fund Information contained in this Presentation

This presentation is furnished to you for informational purposes and is not, and may not be relied on in any manner as, legal, tax, investment, accounting or other advice or as an offer to sell or a solicitation of an offer to buy limited partnership or comparable limited liability equity interests in any fund managed by a subsidiary of SBG, including SB Investment Advisers (UK) Ltd. (“SBIA”), SBLA Advisers Corp. (“SBLA”) and any of their respective affiliates (collectively, the “SB Fund Managers” and each an “SB Fund Manager”) (such funds together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle collectively, the “SB Funds” and each an “SB Fund”). For the avoidance of doubt, the SB Funds include, among other funds, SoftBank Vision Fund L.P. (together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle, the “Vision Fund I” or “SVF1”), and SoftBank Vision Fund II-2 L.P. (together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle, the “Vision Fund II” or “SVF2”), which are managed by SBIA and its affiliates, SoftBank Latin America Fund L.P. (together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle, the “SoftBank Latin America Fund” or “LatAm Fund”), which is managed by SBLA and its affiliates.

None of the SB Funds (including the Vision Fund I, Vision Fund II and SoftBank Latin America Fund), the SB Fund Managers (including SBIA and SBLA), any successor or future fund managed by a SB Fund Manager, SBG or their respective affiliates makes any representation or warranty, express or implied, as to the accuracy or completeness of the information contained herein and nothing contained herein should be relied upon as a promise or representation as to past or future performance of the SB Funds or any other entity referenced in this presentation, or future performance of any successor or the future fund managed by a SB Fund Manager.

Information relating to the performance of the SB Funds or any other entity referenced in this presentation has been included for background purposes only and should not be considered an indication of the future performance of the relevant SB Fund, any other entity referenced in this presentation or any future fund managed by an SB Fund Manager. References to any specific investments of an SB Fund, to the extent included therein, are presented to illustrate the relevant SB Fund Manager's investment process and operating philosophy only and should not be construed as a recommendation of any particular investment or security. The investment performance of individual investments of an SB Fund may vary and the performance of the selected transactions is not necessarily indicative of the performance of all of the applicable prior investments. The specific investments identified and described in this presentation do not represent all of the investments made by the relevant SB Fund Manager, and no assumption should be made that investments identified and discussed therein were or will be profitable.

The performance of an SB Fund in this presentation is based on unrealized valuations of portfolio investments. Valuations of unrealized investments are based on assumptions and factors (including, for example, as of the date of the valuation, average multiples of comparable companies, and other considerations) that the relevant SB Fund Manager believes are reasonable under the circumstances relating to each particular investment. However, there can be no assurance that unrealized investments will be realized at the valuations indicated in this presentation or used to calculate the returns contained therein, and transaction costs connected with such realizations remain unknown and, therefore, are not factored into such calculations.

Estimates of unrealized value are subject to numerous variables that change over time. The actual realized returns on the relevant SB Fund's unrealized investments will depend on, among other factors, future operating results, the value of the assets and market conditions at the time of disposition, any related transaction costs and the timing and manner of sale, all of which may differ from the assumptions and circumstances on which the relevant SB Fund Manager's valuations are based.

Past performance is not necessarily indicative of future results. The performance of an SB Fund or any future fund managed by an SB Fund Manager may be materially lower than the performance information presented in this presentation. There can be no assurance that each SB Fund or any future fund managed by the relevant SB Fund Manager will achieve comparable results as those presented therein.

The actual realized return on unrealized investments by an SB Fund may differ materially from the performance information indicated in this presentation. No assumption should be made that investments identified and discussed in this presentation were or will be profitable, or that investments made in the future will be comparable in quality or performance to the investments described therein.

Third-party logos and vendor information included in this presentation are provided for illustrative purposes only. Inclusion of such logos does not imply affiliation with or endorsement by such firms or businesses. There is no guarantee that an SB Fund Manager, an SB Fund's portfolio companies, any future portfolio companies of a future fund managed by an SB Fund Manager or SBG will work with any of the firms or businesses whose logos are included in this presentation in the future.

SBIA and SBLA manage separate and independent operations and processes from each other and those of SBG and any SB Funds managed by SBIA or SBLA are solely managed by SBIA or SBLA respectively.

免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）及びその子会社（以下 SBG と併せて「当社」）並びに関連会社（以下当社と併せて「当社グループ」）に関する関連

情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものでもありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績の保証を意味するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBGの重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SBファンド（下記で別途定義）並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBGのホームページの「事業等のリスク」

(https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor)をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依存してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当

社グループの将来の実績の予測又は予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業（SB ファンドの投資先を含みますが、これに限られません。）に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBG の普通株式の取引、スポンサーなし ADR（米国預託証券）に関する免責事項

SBG の普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBG の開示は、スポンサーなし ADR（以下「ADR」）の取引の促進を意図するものではなく、ADR の取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBG は、SBG の普通株式に関するスポンサーなし ADR プログラムの設立又はそれに基づき発行される ADR の発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBG は、ADR 保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBG が 1934 年米国証券取引所法（以下「証券取引所法」）で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBG のホームページに、SBG が証券取引所法ルール 12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づく SBG の普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG 及び当社グループは、SBG の普通株式を表象するスポンサーなし ADR に関連して、ADR 保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社や Z ホールディングス株式会社などの、スポンサーなし ADR プログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又は SB Investment Advisers (UK) Limited (以下「SBIA」)、SBLA Advisers Corp. (以下「SBLA」)及びそれらの関係会社を含む SBG の子会社 (以下併せて「SB ファンド運用会社」)により運用されるいずれかのファンド (文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SB ファンド」) のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SB ファンドは、他のファンド同様、それぞれ SBIA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド1」または「SVF1」) と SoftBank Vision Fund II-2 L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド2」または「SVF2」) を含み、また、SBLA とその関係会社によって運用されている SoftBank Latin America Fund L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」または「LatAm Fund」) を含みます。

SB ファンド (ビジョン・ファンド1及びビジョン・ファンド2並びにラテンアメリカ・ファンドを含む)、SB ファンド運用会社 (SBIA を含む)、SB ファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG 又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるとかかわらず表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報は SB ファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又は SB ファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SB ファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連する SB ファンド、本資料に言及されるそ

他のファンド又はSBファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SBファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連するSBファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SBファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連するSBファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載されるSBファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連するSBファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因（例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。）に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連するSBファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつかの要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連するSBファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SBファンド又はSBファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各SBファンド又は関連するSBファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

SBファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、本資料に記載されるパフォーマンス情報と著しく異なる可能性があります。本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むものである、又は、将来行われる投資が本資料に説明される投資と質又はパフォーマンスの点で同等であると仮定すべきではありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SB ファンド運用会社、SB ファンドのポートフォリオ会社、SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又は SBG が、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBIA 及び SBLA は、SBG からそれぞれ別個独立した業務プロセスを運用しており、ビジョン・ファンド 1 及びビジョン・ファンド 2 を含む SBIA によって運営されている SB ファンドは SBIA 単独で運営され、またラテンアメリカ・ファンドは SBLA 単独で運営されています。